

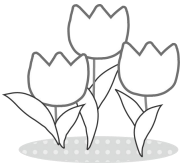


所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2021年4月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-t.jimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。放射線の影響をどれくらい心配するかは、人それぞれです。大事なのは、自分がどうしたいのか？どんな暮らしを望むのか？を考えることだと思っています。とこらぼでは判断材料を測定という形で提供しています。意見が違うからこそ新しいものを生みだせる信頼関係をつなぐ場でありたいと思います。今後も皆様のお力添えをよろしくお願いたします。



新型コロナウイルス感染拡大の状況下ですが、
当面の間「とこらぼ」の活動は以下の通りです。

- ・公開測定は、気になる食材などスタッフのみで測定し、結果を公開します。
- ・測定依頼は、今まで通り受け付けます。

【とこらぼスタッフのつぶやき】

東京新聞2021年1月27日の2面に、廃炉作業新たな壁・福島第一格納容器ふた高濃度汚染・規制委「デブリが上にもあるようなもの」という見出しの記事が掲載されました。内容は、「1号機・100～200兆Bq、2号機・2～4京Bq、3号機・3京Bq(共に137Csの推計値)で2号機・3号機は事故時に大気中に放出された量の2倍程度と推計。放射線量は10Sv/hを超えるとみられる。人が1時間ほどとどまれば確実に死亡する。」というものでした。

次から次へと新しいニュースが世を騒がせ原発事故のことを忘れてしまいがちですが、「とこらぼ」では、毎年、東京大学の小豆川先生の話を書くことで改めて事態の深刻さを思い返しています。

「福島原発の事故で自然界に放出された放射性物質は両手に乗るくらいの量です。」「人が作り出した放射性物質は、しっかりと管理されなければなりません。」と、小豆川先生は話されます。福島原発の廃炉作業は、これからも高線量の場所が見つかることで何十年続くか分かりません。

去年は、小豆川先生が帰還困難地域で測定作業を行うライブ映像を見ることができました。空間線量が300 μ Sv/hという途方もない大きな数字でした。この数値は帰還困難地域のどこにでも、存在する値だそうです。

実際に現地での測定の様子を見ると、数値を見るだけよりも、さらにリアルに、現場の状況の深刻さを感じることができました。

事故から10年経っても依然としてこんなに数値が高いこと、その環境で、事故処理の作業に携わっている人がたくさんいること、小豆川先生のように、計測してデータを残してくれる人がいることを、もっと多くの方に知ってもらいたいと思いました。(上石 正明)

【お待ちかね「小豆川先生オンライン講演会」上映会のお知らせ】

コロナ感染拡大のため1月24日予定していた「とらぼ祭り」は、やむなく中止させて頂きました。申込をされた皆さまには、大変ご迷惑をお掛け致しました。

あらためまして、昨秋開催した小豆川先生のオンライン講演会の録画映像を4月25日（日）に上映いたします。詳細は同封チラシをご覧ください。

「小豆川勝見先生の分かり易いお話し」と「福島第一原発から300メートルという距離での調査活動のライブ映像」がセットでご覧になれます。

* 小豆川先生の講演会で寄せられた感想や質疑応答を別紙にて同封しています。ぜひご覧ください。

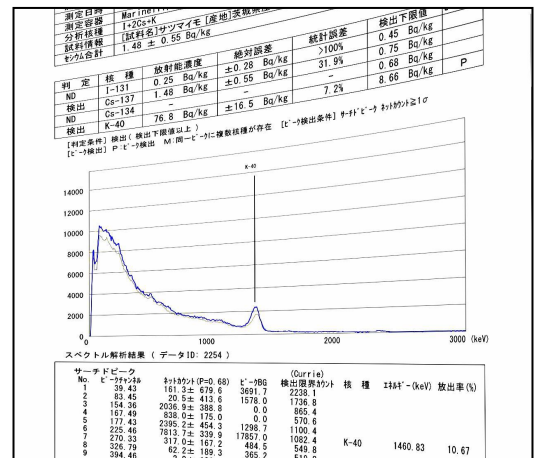
【1月14日、とらぼ2020年会計監査が無事終了】

今年もスタッフ一同、ボランティア精神で頑張っています。2021年も維持会員になって応援してください。下記ゆうちょ銀行口座にお振込みいただければ幸いです。

口座名：所沢・市民放射線測定所
 口座番号：00120-2-466969
 維持会員年会費：3000円

【2021年の主な活動計画】

- ・食品や土壌の測定と公開(毎週木曜日)
- ・公開測定(毎月一回)
- ・航空記念公園の空間線量率定点観測(隔月一回)
- ・講演会や映画会の開催
- ・スタッフ研修
- ・依頼を受けての空間線量出張測定



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー
 ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール：tokolabo2013@gmail.com 電話：080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。
 登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。

【小豆川勝見先生講演会、Q&A 感想 紹介】

昨年10月4日、小豆川勝見先生講演会「現場に通い続けて10年目、福島の今～放射線測定を続けて分かること～」をオンライン開催し、全国から42名の参加がありました。講演内容については前号に掲載しましたが、今回は参加された皆様からの質問と先生のお答え、寄せられた感想を紹介します。

◎質問と回答

Q1	山菜、キノコの影響は知っていましたが、新潟、長野産の室内で作られたエノキ、しめじなどにも影響はある物でしょうか？
A1	室内、というよりもエノキやシメジの場合、多くが菌床のはずです。その菌床の環境(おがくずなど)をどこから持ってきているのか、ということが重要です。その汚染度によって、キノコへの影響度が変わってきます。
Q2	表土などを削ったり集められた放射能汚染物は、移動され薄められて土木資材として使われているのではと懸念しています。実際はどうでしょうか。雨や台風などのたびに、山から放射能はおりて来ているのでしょうか。
A2	はい。風よりも雨の要素が大きいです。大雨が降ればその分移動しますが、一律にせーので動くわけではありません。溜まっていたところが流れれば綺麗になりますし、一方で徐々に溜まっていくところもあるのでケースバイケースです。ただ、川底の土として移動していく分には移動の様子をつかむのが難しいです。川の水が遮蔽剤となっているためです。
Q3	帰宅困難エリアで、今でも空間線量率が高い場所、箇所、数値などを御紹介下さい。
A3	高いところでは地上1mでも30 μ Sv/h程度はあります。
Q4	活動上で、ご苦労されていることは何でしょうか。
A4	お恥ずかしなら圧倒的な資金難、人手不足、などでしょうか。
Q5	今は γ 線しか話題になっていませんが、今回の福島の事故は、 β 線はどのようになっているのですか。
A5	もちろん、我々はガンマ線核種以外にも、ベータ線、アルファ線核種についても測定を行っています。多くのご質問を頂くのはその中でもストロンチウムです。ストロンチウムは場所によって濃度に大きな差があるので、一概にご説明しにくい核種ですが、もっとも典型的なのは、原発のごく周辺で高い濃度である特徴があります。
Q6	9年経っても食品の安全が心配です。肉、野菜、魚、卵、牛乳を買う時には未だに産地をチェックして買っています。周りでそんなことをしている人がいないので、時々やり過ぎなのかこれで良いのかわからなくなります。狭い日本の国土ですから福島だけを重視すれば良いとは思えません。このまま気をつけ続けるべきでしょうか。それとももうそんなに神経質になる必要はないのでしょうか。
A6	食品の選び方についてですが、今年の消費者庁の調査では、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県にお住いの5147人に問うたところ、10.7%の方が福島産を避けると回答しています。ですので、10.7%という割合から考えたとき、「いない」ということはなくて、「(周りに)言っていない」という方が多いのではないのでしょうか。私は、「気にする」「気にしない」が何も気兼ねなく話すことができるようになればいいなと思っています。
Q7	現在、学校給食や外食産業の食材の汚染の現状は、どうなっているのでしょうか。
A7	学校給食にしても外食産業の食材にしても、基準値を超過するようなものが出回る確率は極めて低くなっています。ただ、山菜とキノコには注意が必要です。学校の遠足、校外学習、あるいは道の駅のような場所での食材の調達です。

Q8	先日福島のひらめの需要が回復してきていて、漁業者が喜んでいるというニュースをやっていました。ヒラメは底魚で、放射性物質の影響を強く受けると思われましたが、現在、福島第一が収束できていない状況で、本当に福島の漁場は回復、安全になってきているのでしょうか？
A8	<p>野菜や家畜の肉は、完全に人間がコントロールできる食材です。もしひどく汚染された土地のまま野菜を作ったり、あるいはひどく汚染した餌を家畜に食べさせ続けたりしたら、確実に汚染された食材が作られます。しかし、除染をして餌に気を付ければ生産される食材に高い濃度で放射性物質が混入することはありません。これらはすべて人間の制御下にあります。</p> <p>一方で魚はそうはいきません。幸いにして、結果的に、高い濃度の魚介類が検出される確率は低くなっていますが、人間の制御下にない以上、稀に高いものが存在する、ということは事実だと思います。</p> <p>たとえば実例として、伊豆沖で水揚げされたサメから1 kgあたり700Bq/kgを検出したことがあります。体長4mほどです。この大きさの筋肉から700Bqが検出されるということは、相当な濃度のえさを食べ続けたことになるはずですが、それを検証する方法がありません。しかも伊豆沖です。こういったケースは極めてまれですが、しかし、野菜や肉とは異なる分布であることをお知らせします。</p>

◎感想

・大変貴重な映像や情報をありがとうございました。文字だけの情報で知ると、景色や広さ、距離、防護服の様子、線量変動の様子を映像でみるのとは大きな違いがあると感じました。様々な意見や考え方があるなかで、まずは正しい情報と知識を、という先生のスタンスは大切だと思います。

・除染検証員として被ばく覚悟で現地調査し、真実を伝える小豆川先生の活動に心を動かされました。原発事故のこれからについて、関心を持ち続け、周りの人にも伝えます。国に対して除染を進めるなら除染検証員の増員と調査費用の十分な予算化を働きかけたいと思いました。まずは人もお金も確保されていない現状を多くの人に知ってもらうことから始めます。

・実直に研究者としての使命を全うしようとしている若い先生の存在に感動するとともに、本来こういう調査をするのが研究だよと改めて思いました。先生にばかり被曝の負担がかからないように、もっと専門家が本当に必要ですね。

・私は川内村出身ですので、小豆川先生の研究がとてもありがたく思います。命をかけて研究を進めてくださっていることを知りこれからも応援しています。今回の映像は帰還困難区域がいかに人体に悪影響を及ぼす場所なのかを感じました。

・原発事故から時間が過ぎて私の周りでは帰宅困難者だけの問題であって、日本中の国民の食べ物、健康には影響ないものと信じている人達がたくさんいます。国はあえて国民には公表しない、知らせない様になっています。今日の様な講演会は大切な活動だと思います。

・今までに聞いた講演は、放射性物質の怖さ、どのように対処したら良いかなどが中心だったが、淡々と調査結果を報告するという講演会は初めてでした。物事を判断するときの材料ですか。これがどう使われるのか伺いたかった。在宅での初めてのズーム体験でした。

・現地の映像が、自然が人の営みを飲み込んでしまい、あのときから時間が止まってしまったようでした。本当に現地にいるようでした。

・放射性物質はしっかり管理しなければいけない。このことがよく分かりました。